

# カーボンレポート

## 東京都低炭素ビル実績表示

この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」(都内の中小規模事業所を対象)により東京都に報告したCO<sub>2</sub>排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

No. A1766-0006

報告書提出  
事業者名

野村不動産マスターファンド投資法人

事業所名

野村不動産東日本橋ビル

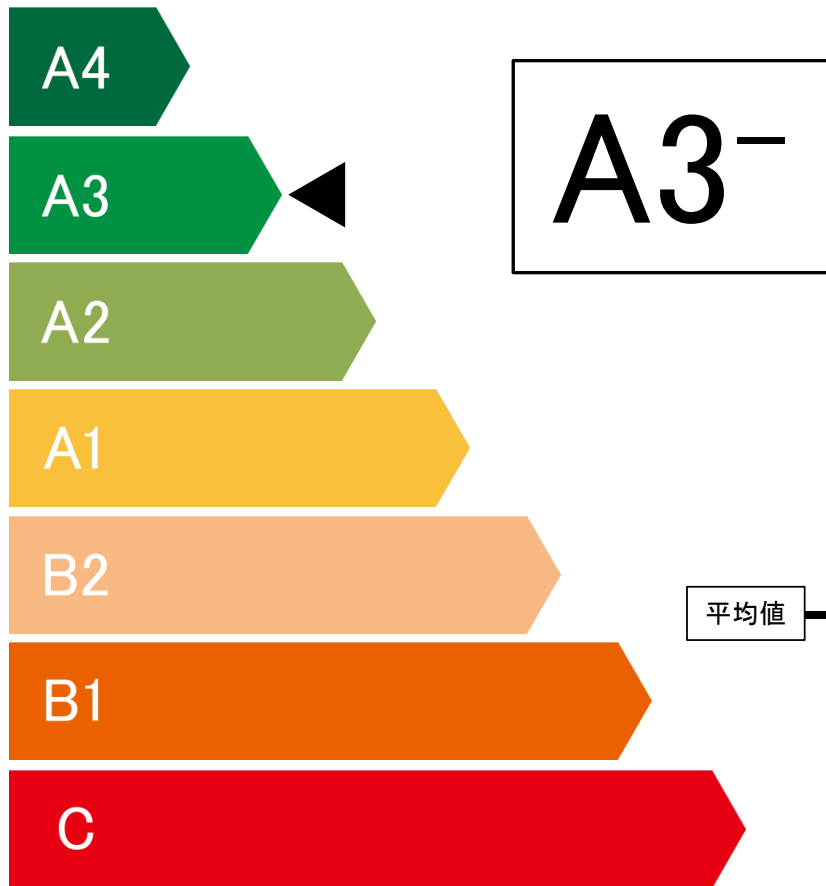
住所

中央区東日本橋1-1-7



実績年度	年間CO <sub>2</sub> 排出量	延床面積	CO <sub>2</sub> 排出原単位 (延床面積当たりの年間CO <sub>2</sub> 排出量)	主たる用途
2014年	268 t	6,741.42 m <sup>2</sup>	39.4 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	事務所

### ベンチマーク区分:テナントビル(中規模、オフィス系)



ベンチマーク レンジ	CO <sub>2</sub> 排出原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> )の範囲	
A4	~	32.9
A3+	32.9	~ 35.9
A3	35.9	~ 38.9
A3-	38.9	~ 41.8
A2+	41.8	~ 44.8
A2	44.8	~ 47.8
A2-	47.8	~ 50.8
A1+	50.8	~ 53.8
A1	53.8	~ 56.8
A1-	56.8	~ 59.7
B2+	59.7	~ 62.7
B2	62.7	~ 65.7
B2-	65.7	~ 68.7
B1	68.7	~ 89.6
C	89.6	~

※ベンチマークは、都内の中小規模事業所のCO<sub>2</sub>排出水準(CO<sub>2</sub>排出原単位の水準)を15段階で示す指標です。(詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)を参照)

※CO<sub>2</sub>排出水準は、ビル側の地球温暖化の対策の推進状況だけでなく、ビルの稼働状況や入居者の取組等の影響を含むものです。

※本書面の記載内容は、第三者の検証を受けたものとは限りません。また、報告書提出事業者の事業所範囲についての内容であるため、区分所有等の場合、基本的にビル全体の内容と一致しません。共有の場合は、持分割合に応じたものとなっています。

◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	テナントにエネルギー使用量提供	テナントへの温暖化対策協力依頼
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	
	エネルギー使用量の前年度比較	
運用対策	共用部照明のフロアごとの管理	空調機スイッチに空調範囲を表示
		便座ヒーター等温度の季節別設定
設備保守対策	空調フィルターの清掃・点検	その他設備の定期的な保守点検
設備導入対策	高効率照明器具の採用(屋内)	全熱交換器の導入
	高効率パッケージの採用	

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明(自由記入)

- 建物概要 竣工年月:1990年9月 建物構造:SRC造 地上9階 地下1階
- 省エネ改修
  - ・Hf照明器具へ更新
  - ・LED照明器具へ更新
  - ・高効率PAC空調へ更新 等

◆ 注記

ビルのCO2排出原単位(延床面積当りの年間CO2排出量)は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO2排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO2排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル(省エネ性能)を評価することができます。

なお、ビルのCO2排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も含まれた平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO2排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)をご参照ください。